

(仮)高城直哉物語  
幼少期～独立開業編

父は自営業で  
母は専業主婦  
母親のじいさんと  
妹と  
5人で母親の実家に住んでいました。

こどもの頃は  
まあまあ食うに困る事はなく  
それなりにぼちぼちの家庭だったと  
思います。

こどものころは自営業でも  
いわゆる社長なのかなと勘違いしていて  
社長のこどもって  
なんだか偉いんじゃないかと  
思い違いをしていたように  
思います。

こどもの頃は  
くもんや塾に通って  
勉強の成績はまあまあ良く  
家が少しはぶり良かったのか  
中学受験するかとか言われて  
友達とか知り合いがないのは  
いやだなと思っていました。

ドッチボールしたり  
ドラクエ買ってもらったり

まあまあ普通の生活をしていました。

なんとなく

こどもながらに

「自分は真ん中より下はイヤ」

「自分はすべてにおいて真ん中より上だ」

という

プライドがあり

更に

自己顕示欲や

他の人が持っているものを欲しくなる

など

なかなか嫌な性格でした。

「足の速さが

真ん中よりちょっと下

ケンカも中の下」

という事が

自分の中で気に入らなかった

部分で

実際より

強くみられたくて

虚勢を張っていました。

小3の時に

割とまじめで

すぐに怒るタイプだったからか

その怒るのを面白がって

からかわれて

学級会の議題に・・・

たかぎくんのイジメに関して

みたいなテーマで  
5人ぐらいに  
謝られた時は  
僕はプライドが高過ぎて

まさかこの俺がイジメられているわけないやろ  
こんな学級会辞めてくれ！！と  
逆にショックでした。

一緒にサッカーチームに通っていて  
中が良いと思っていた友人にまで  
いじめ側ーいじめられ側という  
立ち位置で  
謝られるなんて  
男として  
強く見せたい自分としては  
恥ずかしく

ある夜  
どこで聞いたのか  
母親に  
あんた、いじめられてるの？  
とか言われた日があって

僕は男のプライドが傷ついて  
いじめられてるわけないやろ！と

反論しました。

かわいそうとか  
弱いとかおもわれるぐらいなら

僕にとっては  
からかわれたりし続けても

弱い奴だと思われたくない  
自分のプライドを保つ方が  
重要でした。

小学5年生の頃  
テレビでバブルが弾けた、、、

みたいな事がよく言われた頃に  
うちの家庭も弾けました。

なんとなく  
親父の自営業がうまくいかなくなっている事や

古い家の二階で寝ていると  
帰って来た親父と母親の  
喧嘩の怒鳴り声や  
物が壊れる強烈な音が  
筒抜けで聞こえ

ほんまに

嫌でした。

親父は  
普段はどちらかというと  
インテリな感じなのですが

急に強烈にキレる方で  
(黙って我慢しているタイプだったのかも)  
塾の宿題を言われた通りやらなかったかなんかで

蹴り落とすぞ！！  
とキレられた時には

昭和の作りの急な階段から  
蹴り落とされていました。

もう塾いかんでええ！！  
という事で  
塾をやめ、あまり勉強もしなくなりました。

母親は世間知らずながら  
プライドが高く

父親にビンタされた後  
ビンタしかえしていました。

お前ら上に上がっとけ！！と

喧嘩の最中に  
妹と二階へ上がらされ

その後も続いた喧嘩の末に  
父親は出て行きました。

バブルが弾けて  
仕事や経済的にうまく行かなくなったからか

元々不仲だったのか  
他に原因があったのか  
今となっては  
聞く気もありません。

その1週間後ぐらいに  
当時  
ジョージルーカスの映画を  
舞台にしたのがやっていた

母親と  
妹と  
3人で見に行きました。

そのショーの内容は  
1つも覚えておらず

母親が  
4枚取り出したチケットの  
1枚をカバンにそっとしまった

その瞬間

その映像だけが  
頭に残っています。

その後  
ヤンキーになる力も勇気もなく

自分より弱く  
最終的には  
見放されない  
家族にイライラをぶつけていました。

反抗期も重なって  
自分自身も勝手したり

毎日母親のグチグチした話を  
聞くのもうっとおしかったりで  
怒鳴り合いして

家の壁やテーブルのイスを蹴りまわして  
いました。

自分が怒鳴って  
なんなんですが

親父が出て行って

こどもに怒鳴られ

家に帰ったら  
母親や妹とが  
自殺していたら  
どうしよう、、、と  
本気で怖くなった日もありました。

ただ  
自分でもなんとなく  
この状況を変えたいと思い

母親に  
もうちょっと楽になろうや♪と

これからは前向きに過ごそう  
みたいなつもりで  
言ったところ

こどもに諭される事がかんにさわったのか  
受け入れられる精神状態ではなかったのか

それって離婚しろって言ってんの！？と

キレられてしまい  
(別居はしていて経済的な援助も無かったと思われるが正式に離婚はしていなかった)

今の段階では

どうしようも無いなど  
少し諦めました。

自分と妹が  
20歳過ぎた頃に  
正式に離婚しました。

話が  
長くなったので  
少し割愛しますが

何かの用事で  
どうしても親父に  
電話をしなくては  
いけなくて

約10年ぶりに思いきって  
電話したら  
なんと  
昨日父がたのばあちゃんが  
亡くなったという話でした。

結果的に  
葬式にいけましたが

もし

もし

たまたま  
電話していなかったら  
と思うと、、、です。

葬式でも他の親戚は  
良い意味で談笑してるところ

うちだけは  
シーーンと  
一切会話のない  
重苦しい雰囲気。

ばあちゃんが死んだ事は  
涙しましたが  
もう一緒にいても  
重苦しいだけなので  
早く家族と離れて

とにかく  
1人になりたかった。

その後10年が経ち  
自分が  
結婚する時に  
10年ぶりに会おうかと思い

かろうじて残していたアドレスに  
親父にメールをうった。

自分も結婚する事になり  
世の中のことも  
少しはわかってきたかもしれない。

色々あったが  
その時それぞれの事情があったのではないかと思う。

いま、恨みつらみを言いたいのではなく  
結婚の報告と  
感謝を伝えたいから  
おいしい  
食事でもどうですか？と。

1日経って返事があり。

私のようなものに  
あなたの貴重な時間を割いてもらうのは  
申し訳ありません。

などなど

父親とこどもの  
内容ではなく

敬語で丁寧な内容に  
逆に距離を感じた事を  
よく覚えています。

中学時代は  
成長期が小5ぐらいからはじまり  
背も小さいほうだったのに  
並ぶと後ろから数えたほうが  
早いぐらいになり

面白くなかったものの  
陸上部で  
トレーニングしていたからか  
足も速くなって  
校内の体力測定では  
学年内では目立つ方になっていました。

しかしながら  
周りはまだ成長期の過程  
僕はほぼ成長止まる勢いで  
今と同じくらいの体格

怒りっぽい性格はそのまま  
まわりの奴に蹴りをかましたり  
していたら超人気がなくなり  
遊び友達が全然いなかったように思います。

家庭でも先の通り  
イライラしていたり  
ですが

一応いやいや  
部活をしていたり  
することはあったので

居場所はあったといえばありました。

モテるわけもなく  
とうぜんジャニーズっぽい男子や  
ヤンキー系男子が  
もてていたわけですが

中学3年のある時  
クラスの女子2人に前から回ってきたプリントを  
後ろに回した際

その回し方が気に入らないだか  
なんだかで

悪口をいわれました。

それ以来  
何かにつけて二人で僕の悪口をコソコソ言われ

僕は寝たふりをして  
気にしていないフリをしていましたが  
心の中でどうやって殺したろかとおもてました。

そんな毎日を過ごしていた時  
中学の体育祭があり

体育祭のメインイベントの  
各クラス縦割りの選抜リレーの

選手に選ばれました。

同じクラスには  
のちにプロバスケットボール選手となる  
運動神経抜群で  
身長180センチのイケメンSくんもいましたが  
それを差し置いてなので  
ちょっといい気分です。

そして  
三年生なのでアンカーでした。  
体育祭当日、  
アンカーの僕は  
1、2位を競り合う状態でバトンを受け取ると

後ろから追いかけてくる  
あの学校中でモテモテで後輩女子とかからよく名前が出てくる  
イケメンスポーツ万能のOくんと  
スポーツ万能で面白くて女子受けが良い人気者のNくんを  
振り切り  
1位でゴールしました！

生徒も先生も学校中のみんなが  
キラキラした  
スポーツの名場面を見た時のような表情で  
走り終わってすぐの僕を見ているのがわかりました。

そしてクラスの席に戻るとき

あのコソコソ気に入らなさそうに

僕見ていた女子二人の顔をみると

他のみんなと同様  
あの嫌な顔が嘘みたいに  
キラキラした感じで

まるで目が  
「すごい！見直した！ちょっと尊敬！感動した！」と  
言っているかのようでした。

もちろん  
次の日からは  
その女子2人からコソコソ言われることもなくなりました。

今思えば  
自分に自信がついて  
気にならなくなったか  
周りを気にしすぎていて  
ただの被害妄想だったのかも・・・

ただ  
「結果を出せば状況を変えられる！！」  
と何となく感じた  
初めての経験だったかもしれません。

高校時代は  
中学の怒りっぽく  
友達がいらない  
人気がないのを反省し

幸い同じ中学のやつが  
全然いなかったの  
これはチャンスと

高校デビューでもいいから  
人気者になりたくて  
まずは下ネタを中心に  
友達作りをしました。

作戦は功をそうし  
友達もいっぱい出来て  
クラスの明るくて面白い  
人気ものになることが出来ました。

どこであっても友達や女子に  
「タカギくん、タカギくん」といわれ

家庭では嫌な思いをしていましたが  
その分学校は楽しく

長期の休みも早く終わって学校行って  
みんなと楽しく過ごしたいと  
心から思っているぐらいでした。  
うちの高校は  
文化祭の夜の後夜祭というやつ  
バンドを組んではやりの曲を演奏するのが  
体育館の床が波打って、  
舞台からダイブしても人が群れてて受け止められるぐらい  
最高に盛り上がり  
音響もプロの音響さん呼んできてくれるような

イベントだったのですが

1年の時にそれを初めてみて  
来年は自分も出たいとおもい

さっさと陸上部辞めて  
バイトしてエレキギター買って  
そうか！プロになるやつは1日6時間以上弾き続けるのか！と  
バンドやろうぜ！という雑誌で見たので  
学校終わったらずーっと練習して  
そこそこ弾けるようになりました、、、が

本当にそのイベントの学校内での人気があったので  
学内でのビデオオーディションがあり  
ほとんど3年生のバンドが選ばれてしまいました。

唯一2年生で出演できたのは  
2年のイケメンおしゃれモテモテ軍団のバンド  
しかも歌もうまいし、楽器のテクニックも抜群！

その後夜祭のステージの「下」から  
優勝チームのメンバーだけど  
補欠で出番がなかったために  
祝勝会で素直に喜べない選手のように

超嫉妬しながら  
「来年のラストチャンスこそは絶対にでたい！」  
「もうこんな思い二度としたくない！！」と  
この時からおもっていたように思います。

そこから1年間  
練習しまくって

3年生の時のオーディションでは  
だれもが  
1番に合格に挙げるバンドになり

そのオーディションで  
まだ合格発表前なのに  
さも合格の体で

音楽の先生が僕に  
音響機器の調整に関して質問されるほどになっていました。

ここでも  
「結果をだせば周りの見る目が全然変わるな」と  
実感しました。

その後  
全然勉強していなかった僕は  
大学行っても  
誰でもはいれそうな  
ところしか合格圏内ではなく

漠然と  
音響関係とかだったら  
先の件もあって  
おもしろそうだな

なんか  
かっこいいし  
芸大に音響学科あるな

芸大とかかっこいいなと  
思いましたが

あんなお金うちは払えないなーと  
漠然と思い

だからといって  
自分で稼いで入るみたいな苦勞もしたくなかったし  
学生のうちはできるだけ楽しんで遊びたいし  
受験落ちたらカッコ悪いし  
みないな  
終わっている理由を  
音響業界とかは現場主義やろ  
みたいな言い訳して

受験しなくても入れる  
音響の専門学校に入りました。

その一方で  
音響とか美容とかカメラとか  
手に職をみたいな友達も多かったので

「将来それぞれの特技で一緒になんかできたらいいねー」  
と話していましたが  
それは本当に面白そうだとおもいました。

高校の友達とはただ騒いで  
楽しかったのですが

卒業するかどうかの頃から  
段々みんなが  
パチンコにはまるようになって行きました。

みんなと一緒に動いていても  
パチンコとかの話ばかり

ぼくは全然興味がなく  
会話も合わなくなってきました。  
付き合いでパチンコ行って  
数万円勝っている最中でさえ  
あーはやく帰りたい  
と思っていました。

前のバンドでるために頑張るとか  
何かに夢中になっているときが一番楽しかったので  
次に熱くなれる何かを探していました。

友達からは  
なんか熱い奴だけど  
最近いちいち本気なので  
めんどくさく思われるようになっていったように  
思います。

卒業後も  
仲のよかった友達は  
パチンコとか麻雀でよくあっていたようですが

最初は寂しさを感じながらも  
無理に合わせてまで混じりたいとも思わなくなっていました。

入った専門学校も  
ほとんどサボリ  
適当に楽なバイトして  
ヤンマガ読んで  
夜な夜なバイト仲間と  
ダラダラ過ごすみたいな  
2年間でした。

楽しいのは楽しいのですが  
別に将来働きたくもないし・・・

音響の専門学校入ったものの  
音響が何をおいても好きなわけじゃなく  
ただ音楽聞いたり  
何かに夢中になっていることが好きなだけだったのかなと

でも  
何か熱く夢中になれるものはないかな・・・と  
虚しさを感じながら過ごしていました。

ただ  
せっかく専門学校入ったし  
何か1回ぐらいは本気でやろうと突如感じ

専門学校の超盛り上がる学園祭を  
みんなを巻き込んで  
1回ぐらい盛り上がるイベントにして終わろうと考え

学園祭のプロデューサーに  
立候補してなり

あまりそういうイベントに興味がない人とかも  
その人の好きそうな特技  
例えば学園祭のポスターを依頼して  
書いてもらったり  
みんなをまきこんで  
みんなで一回ぐらいは  
あの高校の時に夢中になっていたように  
したくて・・・

なぜかこういう時は  
短気で自我の強い自分が  
傾聴し、相手に合わせて提案でき、我慢と粘り強い自分になれました。

ポジションがあると  
自分は少し寛容さが出ることに気づきました。

順調に  
就職先も決まり  
主に大きなホテルの宴会場で  
企業のイベントやパーティー  
ディナーショー  
議事録を取るなど  
音響や照明関係の会社でした。

特別やりたかったわけでもないけど  
就職氷河期に

一応音響の機材を扱えるところに  
就職できたので  
まあ良しとしました。

その会社は長時間労働でサービス残業超多くて

ダメ社員で怒られてばかりで  
バイトより仕事ができないダメ社員  
理念とかきれいな事誰も守ってないやんと  
自分が仕事できないことは棚に上げ

まだ俺本気出してないしと  
1回本気出しても失敗して  
ダメすぎて嫌で辞めました。

もうブラック企業はイヤだなと  
教育系の再就職が決まったのですが

教育系は「教育」だけに大丈夫だろうと思っていたら  
結局サービス残業長時間労働低賃金と  
テレアポで胡散臭い電話営業で  
他の社員さん窓際族にされて辞めさせられる寸前  
当然理念とか形ばかり

「あ〜どこに行っても同じやな」と感じ  
まともに出世コースらしきものに乗っている先輩をみても  
俺の将来あんなもんか〜  
俺が超がんばってもあんな感じになれるかどうかなら  
人生真っ暗、終わってるから絶対に嫌だと思った。

しかしながら、  
また2社目辞めたら世間体終わってるな・・・  
何か本気で一生熱くなれるものないかな・・・と  
現実逃避しながら思っていた時に  
ちょっぴり腰が痛くなって接骨院へ初めていった。

大した施術とは思わなかったけど  
10分ほど腰もんでもらって  
何となく元気にづけてもらって  
しかも500円か〜（当時はそういうところだと勘違いしていた）  
素直に行って良かったなと思った。

よしこれの免許取って  
これで辞めたらカッコつかないし  
腹くくってこれで開業しよう！

目標の為の近道なら  
（1年で家が建つとか独立する人は佐川行って金ためると聞いていた）  
スーパーブラックと噂の  
佐川急便でもやり切ってやるぞ！！

というか  
半端に福山通運とか行ったら  
楽で給料安いしカッコつかないし  
（でも保険で入社試験は受けていた）

福山通運落ちて、佐川は受かる  
→学費ためるため腹くくって佐川急便へ

入社試験では  
公式の用紙に

「刺青の有無」とか  
「借金の有無」とか

そんな項目があったので  
ちょっとやばいかな  
来るとこ間違えた？とか  
思いましたが

僕の入社の日  
入れ替わりで辞める人が

「私は！！目標であったケーキ屋の開業資金が溜まったので  
本日辞めさせていただく事になりました！！」と発表し

「なんぼ貯めたんじゃ！！」というこわもての上司の声に  
「1500万です！！」と答えていました。

おおっ

これこれ  
こういうの待ってたと思いました。

やりたいことの為に  
夢中になる  
こういう瞬間を待っていました。

それから  
中途入社50人とともに  
金品携帯電話没収で

バスに乗せられ  
合宿が始まりました。  
リアル男塾みたいところで  
テレビで見たことある  
気合系の合宿でしたが  
僕は人生を変える方向に進んでいる気がして  
気分はのっていました。

50人いた同期も  
3人ぐらいしか残らずでしたが  
屈強な男たちと  
昭和の極道みたいな上司  
リアル男塾の中で  
やれている自分に自信ができました。

佐川の成績は  
どれだけ荷物を運んだかではなく  
前年対比で売り上げどんだけ上げられたか

飛び込み営業で  
他者に出ている貨物を  
値段など交渉して  
取ってくるというもので  
価格などに自己裁量があったので  
自分の性に合っていました。

自分は  
要領が悪く

配達などは遅いのですが  
営業数字が評価につながる事が  
わかっていたので

数字だけを意識して  
ドンドン成績を上げていきました。

営業マン  
25000人中  
100~200番ぐらいには常時つけていました。

2月の寒い時期に  
3980円×20セットをまず自腹で購入し  
「5月の母の日のカーネーションを20セット売る」  
「営業ツールなしで」という無茶ぶりも  
全部売りさばき

さらに売れない人の分まで  
10セットほどは売ったりしていました。  
僕はまじめに汗かいて笑顔で  
営業数字をあげるスタイルだったのですが

やはり  
100番以内の人は  
まさに顧客ニーズを把握し  
そのニーズを満たす提案で

真の営業マンでした。  
その中に今も仕事面で尊敬する  
スーパー営業マンの上司がいて

「仕事が出来るとはこういう人のことか」と  
思った。

ボケ！カス！と言われようと  
仕事ぶりに本当に感心したし

「お前らの給料上げたる！！」と言って

その人に助けられて  
平社員で23、4歳だったが  
本当に  
23万ぐらいから平均月給50万  
最高66万ぐらいに上がった。  
実益もあり本当に凄いと思った。

一方  
その佐川時代の配達先の整骨院に  
気に入られて  
お金を貯めた後入社した

はやく患者さんの問診から入りたいと思い

先輩8人ほどぶち抜いて  
1年後には副院長になった。

当然  
衝突しまくりだったし

ストレスもあったが  
自立するための最短コースを取りたかったので

仲良しでいる事よりも  
少々ぶつかっても  
どうでもよかった。

遠回りしていたし  
佐川で鍛えられて  
根性が違うと自信があった。

しかし  
外部の勉強会などに行くと  
経営者から相手してもらえるほどの実力ではなかった。

やる気あるねみみたいなことは言われても  
決定権のないスタッフは  
相手にされないなと感じて悔しかった。

毎日  
同じ爺さんばあさんが来る  
いわゆる部位転がし長期の  
もみもみ整骨院だった。

なんとなくマッサージの免許ではなく  
もみもみしているのに  
従業員とはいえ少し悪い気がしていた。

途中

そんなじいさんばあさんだらけの  
整骨院に  
甲子園を控える  
P L学園のベンチ入りしている選手が  
藁をもすがる思いで  
なぜかその整骨院に来た。

ぼくは  
じいさん・ばあさん相手に偉そうに  
知ったか医療知識を話していたが

P L学園の野球部のベンチ入りメンバー  
しかも明らかに体が仕上がっている本物をまえに  
急に自信がなくなった。

この子の周りにはいる  
歴代のプロ野球選手  
そのOB  
監督、コーチ

本物の知識に対して  
僕の浅い知識で  
何か言えることがあるのかと。

そこで  
3年務めたものの  
ここでは  
学べることは学んだと思ったこと

先の

本物のスポーツ選手や  
いつか自分が独立した時に  
外傷の経験が欲しかったこと  
その修行の間に  
鍼灸マッサージの免許も  
後でほしくなるかもしれないから  
取ってしまおうとおもい  
色々探して  
西宮市の整骨院に努めることにした。

毎日通院する  
100人以上の患者のうち  
70名は若者で  
スポーツのけが人ばかりだった。

そこで  
これ以上ないと思える努力をしていたが

普段は僕を指名する人やスポーツ選手が  
勝負所で他の人気先生を指名した。

その先生は患者さんのほとんどに若くしてため口  
時にガムを噛んでいたり・・・  
院内で他の先生を怒鳴るタイプ  
後輩はどつかれ蹴られていたが  
自分は気が強く標的にされることは  
あまりなかった。

時に口喧嘩になったりしていた

でも世界大会で優勝する選手や  
多くの人が彼を選んでいた。

ああ「勝負どころでは頼りにされないのか」と  
いう思いと

性格は全然合わなかったが  
その確かな鑑別や実力、仕事ぶりには内心  
感心していた。

最後に勤めた師匠  
社長兼院長もしかり

半端に褒めたり教えたりせず  
はやりのコーチングとか  
マナー研修とかも一切なし  
価値観の押し付けもなし  
ダメなものはダメと言われる

総合病院で見切れない  
手術明けのアスリートや医師が頼りにして  
アスリハを整骨院にふってくるなんて  
見たことなかったですし

MRI で医師が確認しても  
鑑別できなかった  
第1頸椎の骨折  
(普通に歩いて話せて見た目なんの問題もない)を見抜いて堂々と医師に取り直しさせる

関係者全員(医師複数含めて)  
命を救ってくれてありがとうと感謝され

世界一  
日本一の選手やチーム  
Tの女優が  
頼ってくる  
本物中の本物の人だった

僕は  
綺麗な理念より  
そっちの方が憧れたし

人から勝負どころで頼りにされて  
しかも結果を出せる男になりたいと思っていた。

昔から好きな子が出来ても  
振られることにビビって  
「いい人」で終わってしまう  
勘所で  
決めきれない自分にイラだったり

そういうこの悩みを真剣に  
解決してあげたいと思っているのに

遊んでる男に持っていかれたりしてしまう。

悔しさとともに  
自分の勇気のなさや

決めきれぬ男になりたい

相談を受けて  
解決してあげられる  
人になりたいと  
心から思っていたように思う。

開業して  
しばらくした時に  
祖父が亡くなった。

でも  
あまり悲しくなく  
祖父の  
考えや想いが  
口で言えたわけではなかったが  
今までの生活で接している中から  
心で生きていると感じた。

いよいよ  
十分な修行は積んだと  
訪問鍼灸マッサージで  
開業することとなりました。

しかし修行修行と  
資格を取りに学校へ  
借金を使ってセミナーへ  
給料15万で

生活は妻のパートと結婚前の妻の貯金で

生活が支えられている状態

頭の中では

100万円稼ぐプランとイメージは仕上がっていましたが

現実に稼いでくるお金は15万

こどもができて暮らすには全然足りません。

だからと言って妻は金銭的なことでぼくを

責めるようなことはありませんでしたが

ぼくは妻を責めていました。

なんでわからへんねん！！

先行投資やろ！！

朝まで働いて休みの日も

セミナー行って勉強するんも

全部家族のためやろ

俺かって遊んどる訳ちゃうやろ！？

なんなん、不満そうな顔して！！

妻は30万とかで良いから

ただ楽しく暮らしたいと言いました。

ほんまお前はなめとんな！！と

しまいには

怒鳴りちらし

テーブルを思いっきり叩きつけていました。

こどもは訳も分からないのに

パパごめんなさい

ごめんなさいと

泣きじゃくっていました。

昔こどもの頃嫌だったことを

自分がしていて

自己嫌悪になりました。

が

わかっているけれど

止められませんでした。

なんだかんだで

妻が、私が悪かったと謝り（というか逆らえないような言い方でそうさせてしまっている）

一応ぼくもあやまって終わります。

同じようなケンカを1か月おきに3回ほど繰り返し

少し訪問も軌道に乗る兆しがみえてきました。

いやいや、まだまだ気を緩めたらアカン

ここがふんばりどころ

僕が事務作業する同じ部屋で過ごす妻とこども

リラックスできるはずもありませんでした。

気をひと時も緩めず常に張りつめている旦那と

同じ空間に居続ける。

少し軌道に乗ってきたことを察した妻が

そろそろ少し広い部屋に引っ越しを・・・と

ごく自然な話を笑顔でしてきました。

僕はものすごく腹が立ちました

何が広い部屋やねん

気軽に言うな！！と

自分が勝手にしている我慢を妻にも押し付けて

妻の笑顔を消しました。

結局いつものケンカ

でも

自分でも怒りながら

自分で情けないことをしているとわかっていました。

自分がまともに稼いで

余計な心配をさせなければよいだけ

自分が不安なだけ。

さすがに自己嫌悪を乗り越えて

こう思いました。

もう2度と同じことを繰り返さない！！

怒って妻を泣かせたり

関係のない子供まで泣かせたり

自分をもっと楽になるように稼ぐと言っても

一番信じてほしい妻にまで

信じてもらえなかったり

自分の我慢を家族にさせるようなこんな状況は

もう2度と起こさない！！

男には人生を賭けて勝負せなアカン時がある！！

超低リスクの訪問での独立開業

これで勝たれへんかったらどこで勝つねん！！

「時代」が求めてる超安定の柱  
今やらなかったらお前の人生いつやんねん！！

そう決めて  
ただひたすらに  
目標にしていた月100万円まで  
走り続けました！！

それまで  
どうやったら開業してうまくいくかな？・・・とか  
話していた仲間も僕が軌道に乗ってきたことを察すると

今まであんなに  
仕事の話が弾んでいたのに  
「しらけるから仕事の話せんとこーや」とか  
言い出しました。

これが良く聞くパターンのやつか  
少し目立つと批判される

もうしばらく  
このグループの仲間と会うのは避けようと  
なにかと理由をつけて  
会わないようにしました。

誰の批判も気にしない  
この状況を変える事だけに集中する！！

勝てば官軍

出過ぎた杭は打たれない！！

受講生の皆様と

毎日電話やメールでコンサルをしていたので

時間的に全く余裕がなくなりましたが

今まで疎遠になっていた仲間も

「訪問ってどうやったらいいん？」と聞いてくるようになり

深夜から朝方になってようやく

頂いた質問のお返事を全て返せるという日々になってきました。

さすがに

「昔の友達」の返事をし続けることが

心身ともに苦しくなり

しかも昔の友達ほど失礼で

言った事も全然やらないので腹が立ってきました。

しかし

自分も「与えて与えて」とはどこに行っても教わるものの

見返りを求める気持ちはなかなか無くしきることができず

どうしたら

「見返りを求めずに与え続けられるか？」を

真剣に考え続けた結果

10個与えたぐらいじゃあ

与えたことを覚えていて

あいつから見返りがない、、、と

腹が立つなら

100でも

1000でも

10000でも

自分が誰に何をしてあげたとか

覚えきれないところまで

与えて与えて与えまくったらええんちゃうか？

という結論に至り

「覚えきれないところまで与えまくる」というマインドセットが功を奏し

見返りを求めてイライラすることが  
なくなりました。

ノウハウの公開と

開業当初のケンカや

軌道に乗せて家族円満

などの話したことで

それに共感してくれた

昔の同僚が

話を聞きたいと

来てくれたり

ほかの受講生のみんなが軌道に乗って

それぞれの今の悩みや

ぼくが昔開業当初に

悩んだこととまったく同じような

悩みにぶち当たっている人も多くて

それをクリアできて

そうになったら最高だし  
そのお手伝いが出来ていることに  
充実感を覚えています。

そして  
自分が死ぬなら  
残された家族に  
金銭的に困らないよう

また  
家族仲良くやってほしいとか  
人の役に立つことを喜びにするなど  
残せるよう

生きている間に  
背中を見せたいと考えるようになった。

すこしずつ  
最後の日を意識するようになってから

出かける時とか

「もし、この言葉かけが最後のひと言だったら」

そう思うと

イライラが少なくなり

そんなことより  
ありがとうとか  
愛してるとか  
大好きだとかを

家族に素で言えるようになった。

自分が  
もし  
近々  
死ぬ時ことになったら  
こどもや妻に  
どんな想いを残すか、、、と

自然と、  
残された家族、こども、妻の事を  
最優先に考えることに  
生きる意味ができて  
とても嬉しいです。

開業前後のあなたや  
その他必要としてくれるあなたの役に立ち

その結果

多くの悩んでいる人が  
経済的  
時間的  
意思決定の自由を  
手に入れて欲しいと思います。

おかげ様で今は  
妻と子どもたちと川の字で  
ただ寝たり

実家や親戚のうちに  
子ども連れて  
ワイワイできて  
本当に幸せな事でした。

同じような思いで悩んでいる方が  
それぞれの考える  
充実した日々を送れるよう  
お手伝いし続けます。

幼少期から開業1年目まで  
まだ始まったばかり

物語はつづく

高城 直哉

※個人の観賞用にご利用ください。引用外部流出その他類似行為を禁ずる。